

久留米大学を受診した患者さんへ

「唾液腺癌における Y ボックス結合蛋白の発現に関する研究」に使用する試料について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：1978（昭和 53）年 1 月から 2015（平成 27）年 3 月
- 2) 受診科：耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 3) 対象疾患名：唾液腺癌
- 4) 使用する試料：切除された唾液腺腫瘍

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

1) 研究組織：

研究代表者：久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

助教 三橋 拓之

研究分担者：久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

教授 梅野 博仁

久留米大学病院病理部

主任技師 河原 明彦

2) 研究の意義と目的：私たちは唾液腺に発生した癌の研究を行っています。唾液腺癌の治療は手術が第一選択です。しかし唾液腺がんの患者さんの中には手術後に再発や転移を繰り返し他の治療法がなくて亡くなる方もいます。Y ボックス結合蛋白とは乳癌や卵巣癌、肺癌、胃癌などにおいて予後が悪い癌に発現する蛋白質と言われています。そして癌の中に発現した Y ボックス結合蛋白を調べることで新たな治療法を見つける手がかりになる可能性があるとして近年注目されています。この研究は唾液腺癌ではまだ行われていない研究です。私たちは唾液腺癌における Y ボックス結合蛋白の発現を調べて唾液腺癌の再発や転移のメカニズムを解明して新しい治療法の手がかりを研究しています。

3) 研究の方法：研究では手術で切除した唾液腺の臓器を用います。唾液腺から唾液腺癌の細胞を採取して Y ボックス結合蛋白に反応する試薬に浸します。試薬はほかにも Y ボックス結合蛋白と関連があるといわれるホルモンレセプターや上皮増殖因子受容体と呼ばれる

蛋白も使用します。試薬が反応すると顕微鏡で Y ボックス結合蛋白が見えるようになります。そして Y ボックス結合蛋白が発現した癌の再発や予後を調べていきます。

4) 研究期間：平成 27 年 5 月開催の倫理委員会承認後から平成 29 年 5 月 31 日まで

5) 上記の試料の使用を選定した理由：試料は唾液腺癌の腫瘍細胞となります。よって唾液腺癌の診断で手術によって摘出された唾液腺癌が対象となります。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：研究結果は様々な問題を引き起こす可能性があるため、他人に漏れないように取扱いを慎重に行う必要があります。今回採取した組織や診療情報は、分析する前に診療録やその試料の整理簿から、住所、氏名、生年月日などを削り、代わりに新しく符号をつけます。あなたとこの符号を結びつける対応表は、久留米大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座において厳重に保管します。このようにすることによって、採取した組織は、分析を行う研究者にもあなたから採取したものと分からなくなります。

7) 研究成果の発表の方法：あなたの協力によって得られた研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名などが明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌等で公に発表いたします。

8) その他：

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

連絡先：久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 三橋 拓之

住所：〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67 番地

電話番号：0942-35-3311

研究番号 (503)